

この1か月の活動を振り返って

令和2年10月3日
講座総括担当(鎌田)

令和2年度の本格的に講座開催に際しては、9月6日に理事会を、9月25日に講師会を開催してお忙しい中、貴重な時間を割いて頂き意識合わせをさせていただいたところですが、私としては今一つ整理ができていません。そんな中、岡田さんのメールを受けて今一度意識合わせと想いましたが、残念ながら皆さんから見ればその必要性はないようであり、この1か月を振り返り、私の思うところを今一度整理したいと思います。

よく読んでいただき、一人一人ご自身のお考えをキチンと講師全員あてのメールでご連絡いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

(1) もっと、情報の共有を

できる限り講座担当については皆さんにお願いしているところであり、そして、自宅学習のサポートとして添削指導を私が担当させて頂いています。

そして、私の耳の関係もあり受講生対応の基本はメールとし、受講生からは六樹会(基礎科)。六樹会(応用科)、六樹会(研修科)にそれぞれお送りいただき、皆さんと共有しているところです。添削指導は私が行ってはいませんが、皆さんは受講生のメール内容を確認していただき、受講生の理解レベルを把握して頂き、次の講座に活かしていただいているかと思います。

これまで添削に際しては、基礎科の方の添削については、関係の講師の皆さんCCでご連絡をしています。応用科については、必要によりCCでお送りしています。

また、皆さんから頂いたメールの返信の際には必要な方にその都度CCでお送りし、情報の共有をさせて頂いているところです。

基本的には上記のとおりですが、決してメールや電話等による受講生との情報交換を規制しているものではありません。岡田さんのメールに次のようにある通り、大いに情報交換をお願いしたいところです。そしてできる限り情報の共有を考えて頂きたいと思います。本会の受講前から交友のある受講生もおられるかと思いますが、大半は本会の受講から受講生との交流が始まったと思いますから、受講生とのメール交換では関係者にCCで送る等を行い、情報の共有をしたいものです。よく皆さんから、受講生とのメール交換や仲間の情報交換内容をCCでなく、改めて新規メールをいただくことがあります。できればCCで頂きたいところです。

また、今後の添削指導は皆さんにお願いできないでしょうか。ご検討ください。

宇陀教室のほとんどの受講生と 長い付き合いになってしまいました。

そんなことから 気楽に、メールや電話をくださるのかな と思っています。

教室で説明済みのことなら と、私も つい 答えてしまって…そのうちに、

更に、親しみがわいて…それが 宇陀教室での良さとも思っているところが私にもあります。

人それぞれ、辻本さんの例のように、次第にエスカレートしていったという失敗もありましたので、タイミングを見計らって、鎌田さんへの連絡を お願いしているのですが…

(10月11日追記)

私の受講生対応に対する基本的な考え方は、各教室の責任者のもとに講座開催から添削指導等を含めて全ての受講生対応を皆さんにして頂いて、私は技術的な対応のみさせて頂くのが望ましいのではないかと常々考えていますが、皆さんは本会の活動以外に様々な活動をされており、時間的にも肉体的に今の活動以上には無理であることを再認識させて頂きました。

受講生対応についてはこれまで同様とさせていただきますが、皆さんのご協力を得てより強力な受講生対応を進めたいと思います。

私も若干歳をとりこれまでと同様な対応が出来ていないところです。

現在添削メールに対しての対応は、受信したメールの範囲で対応をしている所であり、十分にその受講生との前後の対応を考えて対応をすることが出来なくなっています。

応用科・研修科の添削指導においては、必要を感じた時に皆さんにCCで同報している所ですが、必要により皆さんもメールで介入して頂ければ幸いです。

受講生との情報交換はこれまでと同様にメールを基本とします。そして、受講生情報の共有から、基本的には関係者にCCで同報を基本としたいところです。

メール対応含め受講生対応についてですが、檀原教室は、横尾さんのメールに「受講者の宿題の提出状況を見ていると出来る方と未提出者の差が出来ているように思いその溝をどのようにしたらいいのか講座担当総括と講師皆さんの意見調整も頂きたいところです。」とありますが、横尾さんと藤崎さんでご検討を頂きたいところです。

宇陀教室については、岡田さんのメールに「宇陀教室では、メールの送り方(件名や発信人の書き方 返信の仕方)が乱れてきている方もいらっしゃいますね」とあるように再周知が必要かと思えます。

香芝教室応用科については、川本さんから「応用科の方へは講師への電話連絡の件で2か月ぐらい前にメールを流していただき、すでに十分に理解されておられますので、重ねての連絡はいらないと思います。」とメールを頂いているところです。基礎科については今後の問題でありその節に詳しく説明をして頂ければ幸いです。

とは言え、必要によりメール交換の操作(エチケット)について受講生に再周知も必要かと思えますが、我々講師仲間でも同様です。

今朝の作業において関連メールを見る際に件名でソートをしたのですが、返信メールをお願いしても、新規メールで返信を頂き、改めてメールを探す必要がありました。

また、件名に「ご連絡」「ご報告」とでご連絡を頂いた場合はそのメールを開かないと要件が分かりません。やはり件名についてはメールの要旨が分かるように「○○○○について」等の表記をして頂きたいところです。

(2) 受講生の理解について

応用科および研修科の9月の講座は、第1回「パソコンを学ぶこととは」は私が、第2回「文字入力」についてはそれぞれ担当をさせていただいたところですが、添削をされていて気になるのが「文字入力教材」の練習ができない受講生がおられるところです。テキストの不備でもあるのですが、「問題の末尾にカーソルを立てて“エンターキー”そして段落番号を“バックスペースキー”で削除」のこの操作がなぜできないのか不思議です。

いずれにしても自宅での練習方法については、詳しく説明をしていただきたいところです。

(3) テキストの品質向上について

第2回「文字入力」講座の前に藤崎さんと岡田さんと川本さんとのパソコンにより練習問題の表示が異なることがわかりました。

その対応として岡田さんからメールを頂き、私もよく検討して返信すべきでしたが、今回の練習は単純に文字入力の練習であり問題が見える範囲で練習して頂いても十分なところであり、シートの保護解除は全く必要がないところです。受講生からの添削依頼メールの中でも多くの方からコメントがありました。その都度、コメントを返していますが、2項とも関連しますが、やはりその講座で何を強調して話すべきか考えていく必要があるかと思います。

また、パソコンにより練習問題の表示が異なることは私の1台のパソコンでは確認ができません。以前からテキストの品質向上をお願いしているところですが、できる限り実際に操作をして頂き、その結果をご連絡頂ければテキストの原本の修正を行います。

講座での問題や、受講生から指摘や、添削メールでのコメントなどから必要の都度、テキストの原本修正を行っているところですが、皆さんのご協力をお願いしたいところです。

よろしく願います。

(10月11日追記)

上記のとおりであり、「Word の学習(応用)」および「Excel の学習(応用)」の開放は、日程表から来年2月上旬を予定しています。出来ればそれまでに出来る範囲でレビューをお願いします。

なお、コロナ過の収束については三役ではかなり長引くのではないかと考えています。各会場の3蜜対策が解除されコロナ禍以前と同様に教室開催をするのは、早くとも後期からと考えています。

教室開催が出来ていない場合は、前期と同様に、受講生に教室に来て頂き、後期の受講料の徴収とテキストの配布を行いたいと思いますから、各教室の第11回講座開催日の教室の確保をお願いします。

そして、午前の講座受講生は午後に、午後の講座受講生は午前に教室に来ていただこうと思います。午前、午後の講座とも私が担当して教室の対応は皆さんに願います。